

# 地籍問題研究会 NEWS LETTER

No.6 2021.12.17

# CADASTER

## 第 30 回定例研究会の開催

2021 年 11 月 27 日(土)、第 30 回定例研究会をオンライン開催しました。プログラム及び概要は、本文のとおりです。

録画については、地籍問題研究会 HP <http://chiseki.org/>にて配信予定です。

定例研究会の録画視聴にあたっては ID とパスワード（地籍問題研究会会費納付者に通知）の入力が必要です。



小林 茂 大阪大学名誉教授



小柳春一郎代表幹事



鮫島信行 副代表幹事



清水英範 監事

## 【第 30 回定例研究会プログラム】

テーマ「地籍図編製の研究」

### 特別講演

「明治前期の地籍図作製の技術的背景と近代地籍システムにおけるその役割」

講演者 小林茂氏（大阪大学名誉教授）

### 報告 1

「近代地籍の源流としてのナポレオン地籍：基本原理・実施組織・測量・地籍修正」

報告者 小柳春一郎氏（獨協大学法学部教授、当研究会代表幹事）

### 報告 2

「目賀田種太郎が夢見たカダstral～明治期大蔵官僚の描いた地籍ビジョンと戦後土地調査制度確立に向けての動き～」

報告者 鮫島信行氏（鹿島建設株式会社顧問、当研究会副代表幹事）

### コメント

コメンテーター 清水英範氏（(公社)日本測量協会会長、当研究会監事）

コーディネーター 鮫島信行氏

## 【概要】

第 30 回定例研究会は、新型コロナ感染症対策のため前回に引き続き Zoom によるオンライン開催となった。オンライン 83 名、中継会場（日本出版クラブ会館）7 名の 90 名の参加者を得た。

特別講演では、文化地理学・文化生態学が専門の小林茂大阪大学名誉教授より明治時代前期に行われた地租改正調査並びに地押し調査における地籍図編纂の実態、地租改正調査では小方儀と呼ばれるコンパスを用いた字周回の路線測量と分間略器（単脚平板とアリダード）の使用による測地について、地押し調査では、地租条例の制定と平板測量を用いた更正地図の作成について、詳細な説明が行われ、更正図こそが日本の地籍システムの原点となるものであることが強調された。

## 今後の日程

第31回定例研究会の開催は以下のとおり予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況によりオンライン開催となる可能性もあります。詳細は、開催1か月前を目途にホームページ等によりお知らせ致します。令和4（2022）年度通常総会の開催については別途ご案内申し上げます。

- ・日時 2022年3月26日（土）
- ・テーマ 令和2年国土調査法等の改正事項に関するその後の動向及び課題（仮題）
- ・会場 日比谷コンベンションホール（東京都千代田区）

報告1では、当研究会代表幹事である小柳春一郎獨協大学法学部教授より、近代地籍の原点と言えるナポレオン地籍について、三角点測量やメートル法の制定という科学分野での歴史的背景の下で、測量と公平課税を重視するナポレオンによって、フランス国内及び占領地において19世紀前半に作成された地籍図編纂の経緯と、19世紀末以降における地籍図修正について詳細な説明があり、地籍図はあくまでも税地図であり、所有権に関わる筆界を調査した日本の地籍図とは性格を異にするものであることが強調された。

報告2では、当研究会副代表幹事である鮫島信行鹿島建設株式会社顧問より、地押し調査及び沖縄県土地調査を主導するとともに、旧植民地における土地調査の礎を築いた大蔵官僚目賀田種太郎の功績について説明があり、目賀田が後世に残した地籍調査ビジョンの実現に動いた戦後の人物像について紹介があった。

当研究会監事である清水英範（公社）日本測量協会会長・東京大学名誉教授よりは、講演・報告に対するコメントとともに、明治期以降の地形図作成・三角点網の整備、戦後における地籍図作成の基準点である4等三角点の設置について詳細な説明があり、また、フランスにおける三角測量、江戸時代に使われた正方儀と呼ばれる水準器、戦前における地籍整備の停滞の背景について補足説明があった。

（文責：鮫島信行）

### 編集後記

地籍問題研究会は今年10周年を迎えました。記念すべき年でしたが新型コロナウイルスの感染防止のため会場方式の研究会を開催することが叶わず、オンラインでの開催となりましたことは残念でした。しかし、せめてテーマだけは10周年に相応しいものとして、ナポレオン地籍から明治期の地租改正調査・地押し調査、戦後の測量法と国土調査法の制定に至るまでの地籍編纂の歩みを回顧し、目賀田種太郎が夢見た地籍整備の実現ということを俯瞰してみました。今回の研究会では明治中期以降、国土調査法制定に至るまでの60年間の地籍史の空白が改めて認識され、ミッシングリンクの解明についてのさらなる研究の必要性が確認されました。その意味において、今回地理学がご専門の小林茂先生に大所高所からのお話をいただき、地籍問題研究における新たな視点を獲得することが出来たことは意義深いものがあったと考えます。来年は新たな10年に入りますが、会員の皆様の引き続いてのご支援をお願い申し上げます。末尾になりますどうぞ良いお年をお迎え下さい。

### 地籍問題研究会 News Letter 「CADASTER」 No.6 2021年12月17日発行

代表幹事 小柳春一郎（獨協大学法学部教授） / 事務局長 岡田康夫（國學院大学法学部教授）

事務局 〒171-8516 東京都豊島区南長崎 3-16-6 日本加除出版株式会社

電話 03-3953-5757(代) FAX 03-3953-5772 e-mail:matsubara@kajo.co.jp (担当:松原、朝比奈、眞壁)